【整理番号20】

事後評価書（完了後の評価）

都道府県名	東京都	関係市町村	新島村（ニイジマムラ）

事業名	水産資源環境整備事業　（　水産生産基盤整備事業（特定）　）		
地区名	新島（ニイジマ）	事業主体	東京都

Ⅰ　基本事項

各数値は港勢調査(H29)数値

1．地区概要

漁港名（種別）	羽伏漁港（第１種） 若郷漁港（第１種）		漁場名	新島漁場	
陸揚金額	47	百万円	陸揚量	34	トン
登録漁船隻数	47	隻	利用漁船隻数	47	隻
主な漁業種類	建切網,一本釣,採藻		主な魚種	たかべ・いさき類,キンメダイ,てんぐさ類,とさかのり	
漁業経営体数	38	経営体	組合員数	449	人

地区の特徴

〇新島は東京の南方の海上約１５０km（伊豆諸島の北部）に位置し人口2,705人(平成31年１月時点）の離島で、羽伏漁港（島の東部）と若郷漁港（島の北西部）及び新島港（島の西部）の２漁港１港湾を有している。

〇若郷漁港と新島港（小型船だまり）は地元漁船の通年操業基地として利用しており、羽伏漁港は主として新島港漁船の冬季操業基地として利用している。
　また、島の近隣周囲には好漁場があるため、県外船沖合漁業も操業しており、本地区の漁港はその避難港としても利用されている。

〇島と本土との交通アクセス基盤（船舶）は新島港で、大型定期貨客船（5,000t級）及び高速ジェット船（JF)が就航しており、本土への水産物の供給（輸送）機能や旅客輸送による交流促進機能を有している。
　離島は気象海象条件が厳しく、新島港だけでは島の就航率が低下するため、港湾補完機能（1島2港方式）として、羽伏漁港では大型定期貨客船（5,000t級）用の特目岸壁、若郷漁港では高速ジェット船（JF)用の特目岸壁の整備を推進している。

２．事業概要			
事業目的	○羽伏漁港は、冬季操業基地としての役割を果たすとともに拠点漁港としても機能するよう、防波堤、岸壁の整備及び不足している用地等の造成を推進する。 ○若郷漁港は、地元漁船が通年利用する生産拠点漁港として、安全で効率的に機能するよう、防波堤等による港内静穏度の向上や岸壁等の施設の充実化を図る。 　また、拠点機能の強化として、貨物船による漁業資材や漁獲物等の輸送の安定化を図るため、防波堤及び特目岸壁等の整備を図る。 　さらに、新たに導入された高速ジェット船（JF)の就航を支援するため、防波堤及び特目岸壁等の整備を推進し、新島港の補完機能の役割を担うとともに、都市と漁村の交流を促進し、島の観光関連産業の振興を図る。 ○漁場等は、平成12年の新島・神津島近海地震により磯根漁場が荒廃しているため、生育環境の再生を図ることとし、地先型増殖場や魚礁の整備を推進する。 ○水産業の振興と漁村の総合的な振興（再掲） 　都市と漁村の交流を促進し、島の観光関連産業の振興を図るため、港湾補完機能となる若郷漁港の特目岸壁等の整備を推進する。		
主要工事計画	羽伏漁港:(1)防波堤(改良)L=60m,護岸(改良)L=130m,-3.0m岸壁L=80m, 臨港道路L=750m,用地A=14,810㎡　ほか 若郷漁港:(1)防波堤L=100m,(2)防波堤(改良)L=200m,-3.0m岸壁L=79m, -4.5m岸壁L=100m,-3.0m泊地A=5,400㎡,-4.5m泊地A=4,300㎡　ほか 新島漁場:地先型増殖場(1)7.616ha、魚礁1.256空㎥、魚礁1.256空㎥		
事業費	9,545百万円	事業期間	平成14年度～平成24年度

Ⅱ　点検項目

１．費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

事業採択時は、事業評価を行っていない。

２．事業効果の発現状況

〇羽伏漁港は事業実施以前、外郭施設及び係留施設等が不十分であったため、港内静穏度が悪く、冬季操業基地としての役割を十分に果たせていなかった。そのため、出漁日数の減少、漁獲物運搬経費の増大といった課題があったが、本事業による防波堤、岸壁及び用地等の整備により、羽伏漁港を冬季操業基地として活用することが可能となり、出漁日数の増大、水産物出荷の効率化多様化等が図られている。

〇若郷漁港は事業実施以前、港内静穏度が不十分であったため、港内作業の効率低下、安全性の低下といった課題があったが、本事業による防波堤及び岸壁等の整備により、港内静穏度が向上、係留場所が拡大し、作業環境の安全性の向上と作業の効率化が図られた。
　また、防波堤及び特目岸壁等の整備により、高速ジェット船の安定した就航に寄与している。

〇新島漁場は、地先型増殖場の着底基質では対象生物の着生が確認され、漁獲の安定化に寄与している。また、魚礁設置により、対象生物等の蝟集が確認され、漁獲の安定化に寄与している。

〇若郷漁港の特目岸壁の整備による高速ジェット船の利用は、新島本土間のアクセス向上に寄与するとともに、若郷集落への人の移動の発生により集落の活性化にも貢献している。
　一方、新島港の整備拡充に伴い、新島本土間の物資輸送力が向上し、漁獲物等の輸送体制に変化が生じているものの、特目岸壁は漁船用燃油資材などで漁業用運搬船等が利用しているため重要な機能役割を果たしている。

〇現時点での費用対効果分析の結果は１．０を上回っており、一定の効果発現が見られる。

３．事業により整備された施設の管理状況

　本事業により整備された施設は、漁港管理者である東京都が漁港漁場整備法第２６条の規定に基づき漁港管理規定を定め、これに従い、適正に漁港の維持、保全及び運営その他漁港の維持管理を行っている。

４．事業実施による環境の変化

　自然環境等への顕著な影響は、現在のところ確認されていない。

５．社会経済情勢の変化

〇当該漁港における登録漁船数・利用漁船隻数は、新島村の人口減少や高齢化等の影響を受け、事業開始時（H14年）は登録71隻、利用282隻で、現時点（H29年）で登録47隻、利用47隻と減少している。

〇平成12年の新島・神津島地震により寸断等の被害を受けた、新島港－若郷漁港間の道路は都道211号・新トンネル整備（H16年４月供用）で、集落間及び漁港港湾間の陸上アクセスが向上した。

６．今後の課題

〇漁港における定期貨客船などの港湾補完機能の拡充と漁船利用や漁業利用の調和
〇安全な係留停泊水域等の確保や漁業利用の形態に合わせた就労環境となるような施設の整備改良

７．事業の投資効果が十分見込まれたか

平成　年評価時の費用便益比Ｂ／Ｃ	―	現時点のＢ／Ｃ	1.16	※別紙「費用対効果分析集計表」のとおり

Ⅲ　総合評価

〇本事業では、冬季操業基地としての役割を担っている羽伏漁港において、安全・安心な漁業活動の確保と効率的な陸揚げを図るため、防波堤、岸壁及び用地等の整備を行った。

〇本事業では、生産拠点漁港としての役割を担っている若郷漁港において、漁港が安全で効率的に機能するよう、漁業資材や漁獲物運搬の安定化を図るため、防波堤及び岸壁等の整備を行った。
　また、新たに導入された高速ジェット船(JF)の就航を可能とするため、防波堤及び特目岸壁等の整備を行った。

〇本事業では、新島・神津島近海付近地震により荒廃した漁場の回復・生産量の増大を図るため、また、近年の海洋環境の変化と新島の漁業形態を捉え、地元ニーズのある地先型増殖場や漁礁の整備を行った。

　また、貨幣化が可能な効果について、費用対効果分析を行ったところ、１．０を超えており、経済効果についても確認されている。
　さらに、事業効果のうち貨幣化が困難な効果についても、漁港利用者の安心感の向上、都市との交流のような効果が認められ、地域集落活性化が図られるものと考えられた。
　以上の結果から、本事業は当該地区において漁業経営の安定及び地域経済の振興へ寄与したものとなっており、想定した事業効果の発現が認められた。

【整理番号20】

費用対効果分析集計表

1　基本情報

都道府県名	東京都	地区名	新島地区
事業名	水産生産基盤整備事業	施設の耐用年数	50年 （漁場は30年）

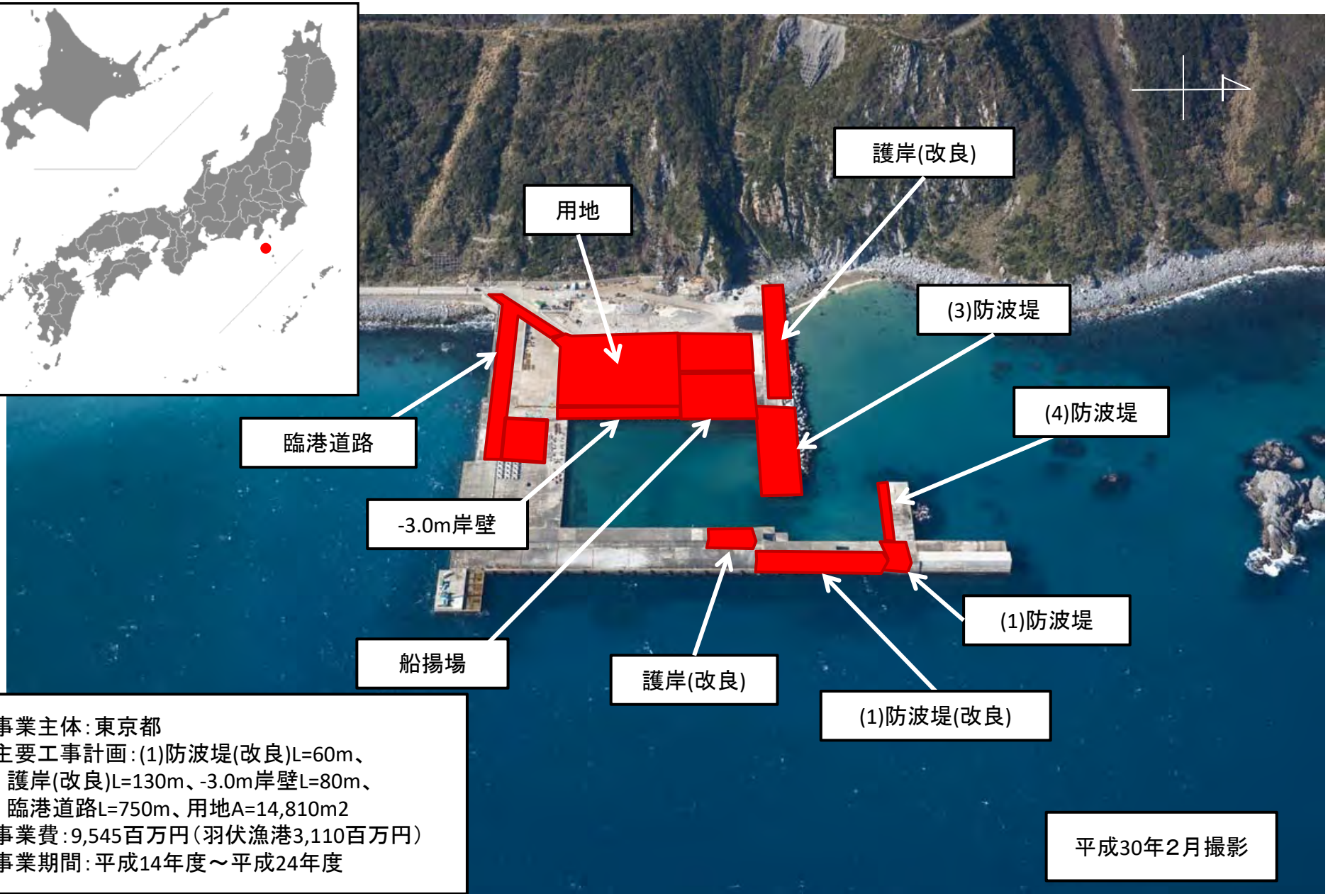
2　評価項目

	評価項目		便益額（現在価値化）	
便益の評価項目及び便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	2,744,547	千円
		②漁獲機会の増大効果	676,043	千円
		③漁獲可能資源の維持・培養効果	1,103,189	千円
		④漁獲物付加価値化の効果	0	千円
	漁業就労環境の向上	⑤漁業就業者の労働環境改善効果	53,964	千円
	生活環境の向上	⑥生活環境の改善効果	10,778,432	千円
	地域産業の活性化	⑦漁業外産業への効果	0	千円
	非常時・緊急時の対処	⑧生命・財産保全・防御効果	626,902	千円
		⑨避難・救助・災害対策効果	0	千円
	自然保全・文化の継承	⑩自然環境保全・修復効果	0	千円
		⑪景観改善効果	0	千円
		⑫地域文化保全・継承効果	0	千円
	その他	⑬施設利用者の利便性向上効果	4,477,245	千円
		⑭その他	0	千円
	計（総便益額）	B	20,460,322	千円
総費用額（現在価値化）		C	17,681,113	千円
費用便益比		B／C	1.16	

3　事業効果のうち貨幣化が困難な効果

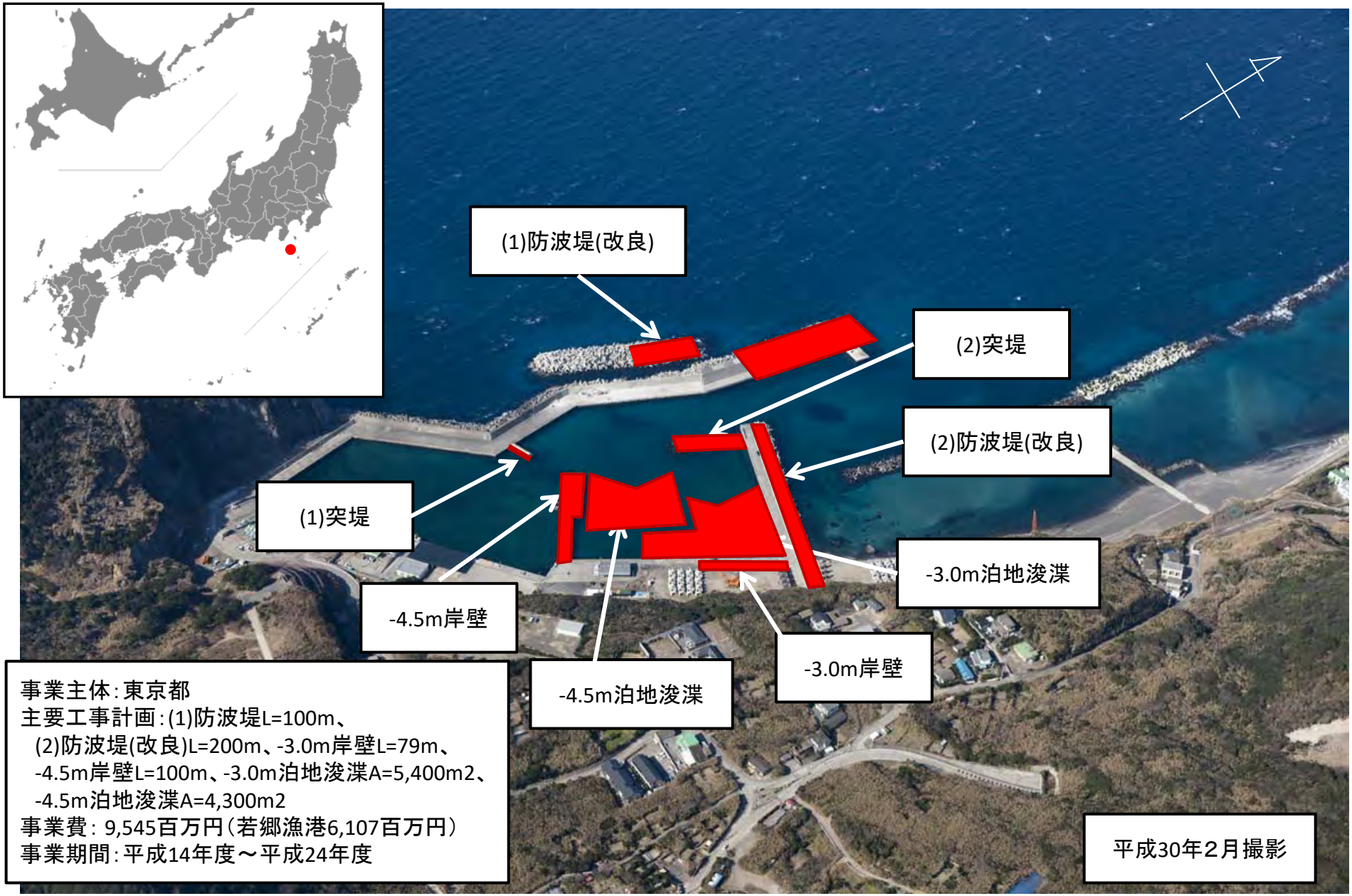
・防波堤の整備による越波波浪対策により、入出港時・漁船係留時・施設の保全における「安心感の向上」という精神的な効果が生じる。
・船揚場・岸壁の整備により、漁船の安全な係留保管が可能となり、「安心感の向上」という精神的な効果が生じる。
・特目岸壁の整備により、都市との交流を生かした地域活性化が図られる。
・漁場整備により、資源管理に基づく持続的な利用が可能となる。

水産生産基盤整備事業　新島地区　事業概要図　【整理番号20】



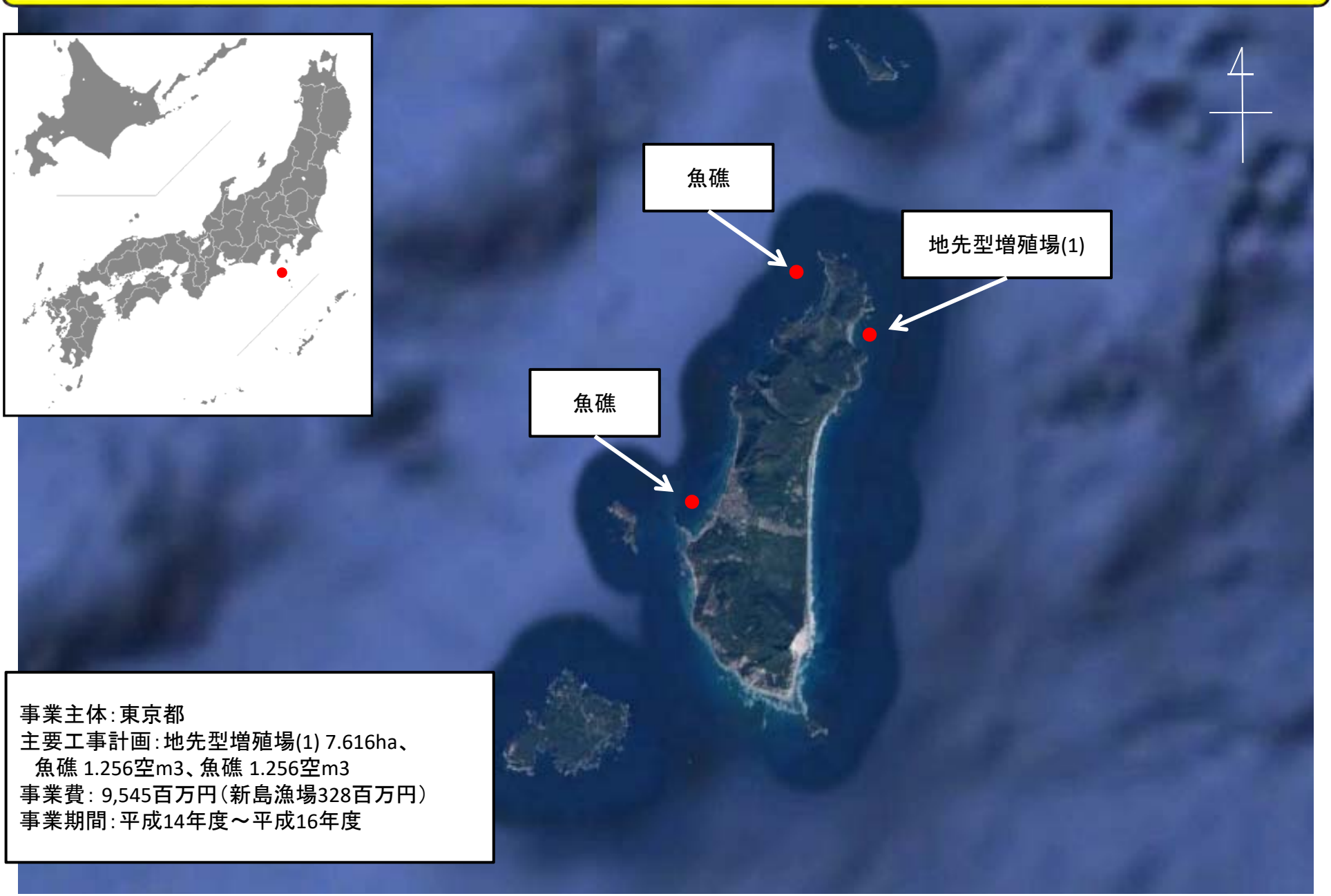
事業主体：東京都
主要工事計画：(1)防波堤(改良)L=60m、
　護岸(改良)L=130m、-3.0m岸壁L=80m、
　臨港道路L=750m、用地A=14,810m2
事業費：9,545百万円（羽伏漁港3,110百万円）
事業期間：平成14年度～平成24年度

水産生産基盤整備事業　新島地区　事業概要図　【整理番号20】



事業主体：東京都
主要工事計画：(1)防波堤L=100m、
(2)防波堤(改良)L=200m、-3.0m岸壁L=79m、
-4.5m岸壁L=100m、-3.0m泊地浚渫A=5,400m2、
-4.5m泊地浚渫A=4,300m2
事業費：9,545百万円（若郷漁港6,107百万円）
事業期間：平成14年度～平成24年度

水産生産基盤整備事業　新島地区　事業概要図　【整理番号20】



事業主体：東京都
主要工事計画：地先型増殖場(1) 7.616ha、
　魚礁 1.256空m3、魚礁 1.256空m3
事業費：9,545百万円（新島漁場328百万円）
事業期間：平成14年度～平成16年度

【整理番号20】

新島地区　水産生産基盤整備事業の効用に関する説明資料

１．事業概要

（１）　事　　業　　目　　的　：　○羽伏漁港は、冬季操業基地としての役割を果たすとともに拠点漁港としても機能するよう、防波堤、岸壁の整備及び不足している用地等の造成を推進する。

○若郷漁港は、地元漁船が通年利用する生産拠点漁港として、安全で効率的に機能するよう、防波堤等による港内静穏度の向上や岸壁等の施設の充実化を図る。

また、拠点機能の強化として、貨物船による漁業資材や漁獲物等の輸送の安定化を図るため、防波堤及び特目岸壁等の整備を図る。

さらに、新たに導入された高速ジェット船（JF)の就航を支援するため、防波堤及び特目岸壁等の整備を推進し、新島港の補完機能の役割を担うとともに、都市と漁村の交流を促進し、島の観光関連産業の振興を図る。

○漁場等は、平成12年の新島・神津島近海地震により磯根漁場が荒廃しているため、生育環境の再生を図ることとし、地先型増殖場や魚礁の整備を推進する。

○水産業の振興と漁村の総合的な振興
都市と漁村の交流を促進し、島の観光関連産業の振興を図るため、港湾補完機能となる若郷漁港の特目岸壁等の整備を推進する。

（２）　主 要 工 事 計 画　：　羽伏漁港:(1)防波堤(改良)L=60m,護岸(改良)L=130m,-3.0m岸壁L=80m,
臨港道路L=750m,用地A=14,810㎡　ほか
若郷漁港:(1)防波堤L=100m,(2)防波堤(改良)L=200m,-3.0m岸壁L=79m,
-4.5m岸壁L=100m,-3.0m泊地A=5,400㎡,-4.5m泊地A=4,300㎡　ほか
新島漁場:地先型増殖場(1)7.616ha、魚礁1.256空㎥、魚礁1.256空㎥

（３）　事　　業　　費　：　9,545百万円

（４）　工　　期　：　平成14年度～平成24年度

2．総費用便益比の算定

（1）総費用総便益比の総括

区分	算定式	数値
総費用（現在価値化）	①	17,681,113　（千円）
総便益額（現在価値化）	②	20,460,322　（千円）
総費用総便益比	②÷①	1.16

（2）総費用の総括

施設名	整備規模	事業費（千円）
・羽伏漁港		
(1)防波堤	L=25m	538,562
(1)防波堤(改良)	L=60m	224,360
(3)防波堤	L=70m	858,228
(4)防波堤	L=50m	585,586
護岸(改良)	L=130m	57,015
胸壁	L=27m	75,390
-3.0m岸壁	L=80m	208,568
船揚場	L=40m	317,477
臨港道路	L=750m	93,298
用地	A=14810㎡	151,366
・若郷漁港		
(1)防波堤	L=100m	2,695,132
(1)防波堤(改良)	L=40m	2,044,839
(2)防波堤(改良)	L=200m	119,201
(1)突堤	L=20m	58,212
(2)突堤	L=50m	249,843
-3.0m岸壁	L=79m	159,331
-4.5m岸壁	L=100m	471,864
-3.0m泊地浚渫	A=5400㎡	171,389
-4.5m泊地浚渫	A=4300㎡	135,128
臨港道路	L=510m	1,359
用地	A=2000㎡	953
・新島地区		
地先型増殖場(1)	7.616ha	209,475
魚礁	1.256空㎥	57,750
魚礁	1.256空㎥	60,375
計		9,544,701
維持管理費等		22,000
総費用（消費税込）		9,566,701
内、消費税額		456,433
総費用（消費税抜）		9,110,268
現在価値化後の総費用		17,681,113

（３）年間標準便益

区分 / 効果項目	年間標準便益額（千円）	効果の要因
水産物生産コストの削減効果	84,223	・静穏度向上による荒天時避難の解消（羽伏） ・係船岸整備等による操業経費の削減（羽伏） ・漁港整備に伴う漁船耐用年数の増加（羽伏） ・防波堤等整備による荒天時陸揚待ち時間の減少（若郷） ・防波堤･岸壁等整備による荒天時外来避難漁船隻数増加（若郷） ・泊地浚渫による港内航行時間の減少（若郷） ・防波堤等整備による荒天時漁船上下架時間･経費の削減（若郷） ・泊地･係船岸･PB係留施設整備による待機時間の削減（若郷） ・運搬船(八幡丸)の係留ﾊﾞｰｽ整備による陸上輸送費の削減（若郷） ・防波堤整備による安全係留時間の削減（若郷） ・防波堤等整備に伴う漁船耐用年数の増加（若郷）
漁獲機会の増大効果	20,746	・係船岸等整備による操業日数の増加(羽伏) ・防波堤等整備による出漁日数の増加(若郷) ・防波堤等整備による操業時間の延長(若郷)
漁獲可能資源の維持培養効果	33,854	・増殖場等による生産量の増加(地先型増殖場) ・増殖場等による生産量の増加(魚礁) ・増殖場等による生産量の増加(魚礁)
漁業就業者の労働環境改善効果	1,656	・漁港整備に伴う利便性向上による労力軽減(羽伏) ・漁港施設整備による労力の軽減(若郷)
生活環境の改善効果	330,762	・防波堤等壁整備による航路欠航回数の減少(若郷) ・航路岸壁整備によるJT利用者の利便性向上（若郷）
生命・財産保全・防御効果	19,238	・係留整備等による漁網等破損経費の削減(羽伏)
施設利用者の利便性向上効果	137,395	・防波堤整備による観光客増加による効果（若郷）
計	627,874	

（4）費用及び便益の現在価値算定表

評価期間	年度	割引率	デフレータ	費用（千円）			便益（千円）								
				事業費（維持管理費含む）	事業費（税抜）	現在価値（維持管理費含む）	水産物生産コストの削減効果	漁獲機会の増大効果	漁獲可能資源の維持培養効果	漁業就業者の労働環境改善効果	生活環境の改善効果	生命・財産保全・防御効果	施設利用者の利便性向上効果	計	現在価値（千円）
		①	②		③	①×②×③								④	①×④
−17	14	1.948	1.197	946,952	901,859	2,102,915	0	0	0	0	0	0	0	0	0
−16	15	1.873	1.222	1,062,474	1,011,880	2,315,997	0	0	2,730	0	0	0	0	2,730	5,113
−15	16	1.801	1.224	733,097	698,188	1,539,102	0	0	31,124	0	0	0	0	31,124	56,054
−14	17	1.732	1.223	1,122,589	1,069,132	2,264,674	0	0	33,854	0	0	0	0	33,854	58,635
−13	18	1.665	1.199	1,007,415	959,443	1,915,370	0	0	33,854	0	0	0	0	33,854	56,367
−12	19	1.601	1.210	1,044,352	994,621	1,926,790	0	0	33,854	0	0	0	0	33,854	54,200
−11	20	1.539	1.207	822,316	783,158	1,454,773	627	0	33,854	0	330,762	0	137,395	502,638	773,560
−10	21	1.480	1.133	820,122	781,069	1,309,728	6,923	0	33,854	0	330,762	0	137,395	508,934	753,222
−9	22	1.423	1.089	567,883	540,841	838,113	15,467	8,620	33,854	0	330,762	19,238	137,395	545,336	776,013
−8	23	1.369	1.130	614,900	585,619	905,935	15,467	8,620	33,854	0	330,762	19,238	137,395	545,336	746,565
−7	24	1.316	1.090	803,679	765,409	1,097,933	15,467	8,620	33,854	0	330,762	19,238	137,395	545,336	717,662
−6	25	1.265	1.094	200	190	263	48,257	8,620	33,854	0	330,762	19,238	137,395	578,126	731,329
−5	26	1.217	1.047	200	185	236	48,257	8,620	33,854	0	330,762	19,238	137,395	578,126	703,579
−4	27	1.170	1.029	200	185	223	48,257	8,620	33,854	0	330,762	19,238	137,395	578,126	676,407
−3	28	1.125	1.026	200	185	214	48,257	8,620	33,854	0	330,762	19,238	137,395	578,126	650,392
−2	29	1.082	1.000	200	185	200	48,257	20,746	33,854	0	330,762	19,238	137,395	590,252	638,653
−1	30	1.040	1.000	200	185	192	48,257	20,746	33,854	0	330,762	19,238	137,395	590,252	613,862
0	1	1.000	1.000	200	182	182	48,257	20,746	33,854	0	330,762	19,238	137,395	590,252	590,252
1	2	0.962	1.000	200	182	175	68,148	20,746	33,854	0	330,762	19,238	137,395	610,143	586,958
2	3	0.925	1.000	200	182	168	68,148	20,746	33,854	0	330,762	19,238	137,395	610,143	564,382
3	4	0.889	1.000	200	182	162	68,148	20,746	33,854	0	330,762	19,238	137,395	610,143	542,417
4	5	0.855	1.000	200	182	156	84,223	20,746	33,854	1,656	330,762	19,238	137,395	627,874	536,832
5	6	0.822	1.000	200	182	150	84,223	20,746	33,854	1,656	330,762	19,238	137,395	627,874	516,112
6	7	0.790	1.000	200	182	144	84,223	20,746	33,854	1,656	330,762	19,238	137,395	627,874	496,020
7	8	0.760	1.000	200	182	138	84,223	20,746	33,854	1,656	330,762	19,238	137,395	627,874	477,184
8	9	0.731	1.000	200	182	133	84,223	20,746	33,854	1,656	330,762	19,238	137,395	627,874	458,976
9	10	0.703	1.000	200	182	128	84,223	20,746	33,854	1,656	330,762	19,238	137,395	627,874	441,395
10	11	0.676	1.000	200	182	123	84,223	20,746	33,854	1,656	330,762	19,238	137,395	627,874	424,443
31	32	0.296	1.000	200	182	54	84,223	20,746	0	1,656	330,762	19,238	137,395	594,020	175,830
32	33	0.285	1.000	200	182	52	84,223	20,746	0	1,656	330,762	19,238	137,395	594,020	169,296
33	34	0.274	1.000	6,200	5,636	1,544	84,223	20,746	0	1,656	330,762	19,238	137,395	594,020	162,761
34	35	0.264	1.000	180	164	43	84,223	20,746	0	1,656	330,762	19,238	137,395	594,020	156,821
35	36	0.253	1.000	158	144	36	84,223	20,746	0	1,656	330,762	19,238	137,395	594,020	150,287
36	37	0.244	1.000	143	130	32	64,547	20,746	0	1,352	330,762	19,238	137,395	574,040	140,066
37	38	0.234	1.000	119	108	25	64,547	20,746	0	1,352	330,762	19,238	137,395	574,040	134,325
38	39	0.225	1.000	98	89	20	48,257	20,746	0	0	330,762	19,238	137,395	556,398	125,190
39	40	0.217	1.000	76	69	15	47,630	20,746	0	0	0	19,238	0	87,614	19,012
40	41	0.208	1.000	59	54	11	41,334	20,746	0	0	0	19,238	0	81,318	16,914
41	42	0.200	1.000	42	38	8	32,790	12,126	0	0	0	0	0	44,916	8,983
42	43	0.193	1.000	30	27	5	32,790	12,126	0	0	0	0	0	44,916	8,669
43	44	0.185	1.000	17	15	3	32,790	12,126		0				44,916	8,309
44	45	0.178	1.000	0	0	0		0		0				0	0
計				9,566,701	9,110,268	17,681,113	計								20,460,322

※評価期間は、便益対象施設が複数ある場合、各施設の整備毎に効果が発生するものとして算定
※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

3．効果額の算定方法

(1) 水産物生産コストの削減効果

1-1　静穏度向上による荒天時避難の解消（羽状漁港）

区分			備考
年間避難回数〔回/年〕（整備前）	①	20	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
他港避難隻数〔隻〕	②	29	港勢調査（H29）
1隻当たり乗組員数〔人/隻〕	③	2.0	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
新島港までの漁船移動距離（往復）〔ｋｍ〕	④	32.0	
漁船燃料費〔千円/ｋｍ〕	⑤	0.30	
1出漁当・漁場までの漁船移動経費〔千円/隻〕	⑥	9.6	④×⑤
漁船航行速度〔ｋｍ/ｈ〕	⑦	18.5	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
新島港までの移動時間（往復）〔時間〕	⑧	1.73	④÷⑦
漁業者の労務単価〔千円/人・時間〕	⑨	1.877	漁業経営調査報告（H30）
年間避難回数〔回/年〕（整備後）	⑩	8	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船移動経費額〔千円/年〕	⑪	3,341	②×（①－⑩）×⑥
漁業者時間削減額〔千円/年〕	⑫	2,260	②×③×（①－⑩）×⑧×⑨
年間便益額〔千円/年〕	⑬	5,601	⑪＋⑫
事業費按分比率	⑭	0.643	新規計画との按分
計上年間便益額〔千円/年〕		3,601	⑬×⑭

1-2　係船岸整備等による操業経費の削減（羽状漁港）

区分			備考
対象漁船隻数〔隻/年〕	①	29	港勢調査（H29）
年間出漁日数（羽状側操業日数）〔日/年〕	②	20	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁場までの漁船移動距離（往復）〔ｋｍ/隻〕	③	32.0	図上計測
日平均出漁回数〔回/日〕	④	1.0	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船燃料費〔千円/ｋｍ〕	⑤	0.30	
羽伏漁港までの陸上移動距離（往復）〔ｋｍ/台〕（整備後）	⑥	12.2	図上計測
車両移動回数〔回/日〕（整備後）	⑦	1.0	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
車両燃料費〔千円/ｋｍ〕	⑧	0.01665	H31.4水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン-参考資料-
GDPデフレータ（H31）	⑨	103.0	内閣府経済社会総合研究所（H29の値を準用）
GDPデフレータ（H20）	⑩	104.4	内閣府経済社会総合研究所
1隻1出漁当たりの漁場までの漁船移動経費	⑪	9.6	③×④×⑤
車両1台当たりの羽伏漁港までの移動経費〔千円/隻〕	⑫	0.200	⑥×⑦×⑧×（⑨/⑩）
燃料費軽減額〔千円/年〕	⑬	5,452	①×②×（⑪－⑫）
1隻当たり乗組員数〔人/隻〕	⑭	2.0	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船航行速度〔ｋｍ/ｈ〕	⑮	18.5	
海上移動時間〔時間/人・回〕	⑯	1.73	③/⑮
漁業者の労務単価〔千円/人・時間〕	⑰	1.877	漁業経営調査報告（H30）
車両走行速度〔ｋｍ/ｈ〕	⑱	40	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
陸上移動時間〔時間/人・回〕	⑲	0.31	⑥/⑱
人件費削減額〔千円/年〕	⑳	3,092	①×②×④×⑭×（⑯－⑲）×⑰
年間便益額〔千円/年〕		8,544	⑬＋⑳

1-3　漁港整備に伴う漁船耐用年数の増加（羽状漁港）

区分			備考
通常時に水域係留する漁船隻数〔隻〕	①	26	港勢調査(H29)
上記漁船の総トン数〔トン〕	②	150.9	
漁船の耐用年数〔年〕（整備前）	③	7	実用耐用年数総覧
想定される耐用年数の延長〔年〕	④	3.17	H31.4水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン－参考資料－
漁船の建造費（FRP製）〔千円/トン〕	⑤	3,403	造船造機統計調査（H26.1～H30.12）
年間便益額〔千円/年〕	⑥	22,866	（1/③－1/（③＋④））×②×⑤
事業費按分比率	⑦	0.703	新規計画との按分
計上年間便益額〔千円/年〕		16,075	⑥×⑦

1-4　防波堤等整備による荒天時陸揚待ち時間の減少（若郷漁港）

区分			備考
年間荒天時出漁日数〔日/年〕	①	33	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
1日当たり出漁隻数〔隻/日〕	②	29	H29港勢調査
漁船1隻当たりの乗組人員〔人/隻〕	③	1.3	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
1隻当たり陸揚待ち時間〔時間/回〕（整備前）	④	0.34	
1隻当たり陸揚待ち時間〔時間/回〕（整備後）	⑤	0.17	
漁業者の労務単価〔千円/人・時間〕	⑥	1.877	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕		397	①×②×③×（④－⑤）×⑥

1-5　防波堤･岸壁等整備による荒天時外来避難漁船隻数増加（若郷漁港）

区分			備考
年間避難回数(下田避難)〔回/年〕	①	7	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
1回当たり避難隻数〔隻/回〕	②	3	
1隻当たり乗組員数〔人/隻〕	③	2.7	
労務単価〔千円/人・時間〕	④	1.877	漁業経営調査報告（H30）
1隻当たり避難時間（往復）〔時間/回・隻〕	⑤	4.2	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
1隻当たり1回避難経費〔千円/回・隻〕	⑥	61	
1隻1時間当たり漁獲金額〔千円/時間・隻〕	⑦	10.4	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕	⑧	2,645	①×②×｛（③×④＋⑦）×⑤＋⑥｝
事業費按分比率	⑨	0.947	新規計画資料との按分
計上年間便益額〔千円/年〕		2,505	⑧×⑨

1-6　泊地浚渫による港内航行時間の減少（若郷漁港）

区分			備考
港内航行短縮時間〔時間/回〕	①	0.25	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
1日当たり港内航行回数〔回/日〕	②	2	
出漁日1日当たりの漁船隻数〔隻/日〕	③	9	港勢調査（H29）5t以上利用漁船隻数
漁船の年間出漁日数〔日/年〕	④	135	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船1隻当たりの乗組人員〔人/隻〕	⑤	1.3	
漁業者の労務単価〔千円/人・時間〕	⑥	1.877	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕		1,482	①×②×③×④×⑤×⑥

1-7　防波堤等整備による荒天時漁船上下架時間･経費の削減（若郷漁港）

区分			備考
台風時揚船回数〔回/年〕	①	7	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象漁船隻数（台風時）〔隻〕	②	9	港勢調査(H29)5ｔ以上登録漁船
揚船時間（上下架･固定作業）〔時間/隻〕（整備前）	③	4	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
水域係留時間〔時間/隻〕（整備後）	④	1.5	
荒天時揚船回数〔回/年〕（台風以外の荒天時）	⑤	72	
対象漁船隻数（台風以外の荒天時）〔隻〕	⑥	15	港勢調査(H29)3t以上登録漁船
揚船時間（上下架･固定作業）〔時間/回〕	⑦	3	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁業者作業人数〔人/隻〕	⑧	4	
漁業者労務単価〔千円/人・時間〕	⑨	1.877	漁業経営調査報告（H30）
人件費削減額（台風時）〔千円/年〕	⑩	296	①×②×（③－④）×⑨
人件費削減額（台風時以外の荒天時）〔千円/年〕	⑪	24,326	⑤×⑥×⑦×⑧×⑨
年間便益額〔千円/年〕		24,622	⑩＋⑪

1-8　泊地･係船岸･PB係留施設整備による待機時間の削減（若郷漁港）

区分			備考
年間平均出漁日数　通常期〔日/年〕	①	73	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
年間平均出漁日数　夏期〔日/年〕	②	50	
平均的な待機時間　通常期〔時間/日〕	③	0.5	
夏期〔時間/日〕	④	1.5	
対象漁船隻数〔隻〕	⑤	18	港勢調査（H29）
漁船1隻当たりの乗組人員〔人/隻〕	⑥	1.3	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
海上作業従事者数〔人〕	⑦	23	⑤×⑥
漁業者労務単価〔千円/人･時間〕	⑧	1.877	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕		4,814	{（①×③）＋（②×④）}×⑦×⑧

1-9　運搬船(八幡丸)の係留ﾊﾞｰｽ整備による陸上輸送費の削減（若郷漁港）

区分			備考
新島港への陸上移動時間（往復）〔時間/回〕	①	1	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
燃料運搬回数（運搬船）〔回/年〕	②	12	
燃料運搬作業人員〔人/日〕	③	1	
タンクローリー傭車料〔千円/日〕	④	50	
作業員労務単価〔千円/人・時間〕	⑤	2.275	漁協職員：毎月勤労統計H30
年間便益額〔千円/年〕		627	②×（①×③×⑤＋④）

1-10　防波堤整備による安全係留時間の削減（若郷漁港）

区分			備考
通常の低気圧通過や冬季節風による荒天時〔日/年〕	①	36	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
対象漁船隻数〔隻〕	②	18	港勢調査（H29）
漁船1隻当たりの乗組人員〔人/隻〕	③	1.3	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
安全係留作業人員〔人〕	④	23	②×③
漁業者労務単価〔千円/時間〕	⑤	1.877	漁業経営調査報告（H30）
安全係留作業時間〔時間/日〕（整備前）	⑥	3	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
安全点検作業時間〔時間/回〕（整備前）	⑦	1	
安全点検作業回数〔回〕（整備前）	⑧	4	
安全係留作業時間〔時間/日〕（整備後）	⑨	1	
安全点検作業時間〔時間/回〕（整備後）	⑩	0.5	
安全点検作業回数〔回〕（整備後）	⑪	2	
年間便益額〔千円/年〕		7,771	①×④×⑤×（（⑥－⑨）＋（⑦×⑧－⑩×⑪））

1-11　防波堤等整備に伴う漁船耐用年数の増加（若郷漁港）

区分			備考
通常時に水域係留する漁船隻数〔隻〕	①	18	港勢調査(H29)
上記漁船の総トン数〔トン〕	②	137	
漁船の耐用年数〔年〕（整備後）	③	7	実用耐用年数総覧
想定される耐用年数の延長〔年〕	④	3.17	H31.4水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン－参考資料－
漁船の建造費（FRP製）（千円/トン）	⑤	3,403	造船造機統計調査（H26.1～H30.12）
年間便益額〔千円/年〕	⑥	20,760	{1/③－1/(③＋④)}×②×⑤
事業費按分比率	⑦	0.664	新規計画との按分
計上年間便益額〔千円/年〕		13,785	⑥×⑦

(2) 漁業機会の増大効果削減効果

2-1　係船岸整備等による操業日数の増加（羽伏漁港）

区分			備考
年間漁獲金額〔千円/年〕	①	105,000	港勢調査（H27～H29平均）
年間平均出漁日数〔日/年〕	②	135	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
1日当たり漁獲金額〔千円/日〕	③	778	①÷②
増加日数〔日/年〕	④	20	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁業所得率	⑤	0.554	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕		8,620	③×④×⑤

2-2　防波堤等整備による出漁日数の増加（若郷漁港）

区分			備考
年間漁獲金額〔千円/年〕	①	48,667	港勢調査（H27～H29平均）
採貝藻漁獲金額〔千円/年〕	②	2,401	
年間平均出漁日数〔日/年〕	③	135	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
1日当たり漁獲金額〔千円/日〕	④	343	((①－②)/③)
増加日数〔日/年〕	⑤	45	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁業所得率	⑥	0.554	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕	⑦	8,551	④×⑤×⑥
事業費按分比率	⑧	0.899	新規計画との按分
計上年間便益額〔千円/年〕		7,687	⑦×⑧

2-3　防波堤等整備による操業時間の延長（若郷漁港）

区分			備考
年間漁獲金額〔千円/年〕	①	48,667	港勢調査（H27～H29平均）
年間平均出漁日数〔日/年〕	②	135	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
1日当たり平均海上労働時間〔時間/日〕	③	4.85	
年間平均海上労働時間〔時間/年〕	④	655	②×③
単位時間当たり漁獲金額〔千円/時間〕	⑤	74	①/④
延長できる操業時間〔時間/日〕	⑥	3.65	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
操業時間が延長できる日数〔日/年〕	⑦	33	
漁業所得率	⑧	0.554	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕	⑨	4,938	⑤×⑥×⑦×⑧
事業費按分比率	⑩	0.899	新規計画との按分
計上年間便益額〔千円/年〕		4,439	⑨×⑩

(3) 漁獲可能資源の維持・培養効果

3-1　増殖場等整備による生産量の増加(地先型増殖場)　新島漁場（１）

区分			備考
増殖場造成面積〔㎡〕	①	78,696	潜底・石積山部分以外
	②	23,804	潜底・石積山部分
単位面積当たり年間着底量（イセエビ）〔匹〕	③	8	潜底・石積山部分　千葉県水産試験場データによる
	④	0.826	その他の部分　都水産試験場データによる
（テングサ）〔kg/㎡〕	⑤	1.212	潜底・石積山部分　都水産試験場データによる
魚種別単価〔円〕　（イセエビ）〔円〕	⑥	5,639	最近3ヵ年H27～H29のイセエビ単価の平均　東京都の水産
（テングサ）〔円〕	⑦	723	最近3ヵ年H27～H29のテングサ単価の平均　東京都の水産
生残率　（イセエビ）	⑧	0.0576	都水産試験場データによる
平均重量　（イセエビ）〔kg〕	⑨	0.252	都水産試験場データによる
漁獲率　（イセエビ）	⑩	0.70	都水産試験場データによる
漁業経費率	⑪	0.20	東京都調査：採介藻漁業平均
年間便益額〔千円/年〕		28,394	(((①×④＋②×③) ×⑥×⑧×⑨×⑩) ＋ (②×⑤×⑦))×(1-⑪) /1000

3-2　増殖場等整備による生産量の増加(並型魚礁)　新島漁場（３）

区分			備考
魚礁空〔空㎥〕	①	1,256	増殖機能付鋼製魚礁３１４空m3×4基
空㎥当たり年間漁獲量〔kg/空㎥〕	②	2.44	近隣地区の魚礁事業効果調査のデータによる
魚種別水揚量〔kg〕（タカベ）	③	30,144	最近3ヵ年H27～H29のタカベ漁獲量の平均　東京都の水産
（イサキ）	④	6,456	最近3ヵ年H27～H29のイサキ漁獲量の平均　東京都の水産
魚種別単価〔円〕（タカベ）	⑤	1,270	最近3ヵ年H27～H29のタカベ単価の平均　東京都の水産
（イサキ）	⑥	801	最近3ヵ年H27～H29のイサキ単価の平均　東京都の水産
漁業経費率	⑦	0.25	東京都調査：一本釣漁業平均
年間便益額〔千円/年〕		2,730	((③/(③＋④)×①×②×⑤)＋(④/(③＋④)×①×②×⑥))×(1-⑦)/1000

3-3　増殖場等整備による生産量の増加(並型魚礁)　新島漁場（４）

区分			備考
魚礁空〔空㎥〕	①	1,256	増殖機能付鋼製魚礁３１４空m3×4基
空㎥当たり年間漁獲量〔kg/空㎥〕	②	2.44	近隣地区の魚礁事業効果調査のデータによる
魚種別水揚量〔kg〕（タカベ）	③	30,144	最近3ヵ年H27～H29のタカベ漁獲量の平均　東京都の水産
（イサキ）	④	6,456	最近3ヵ年H27～H29のイサキ漁獲量の平均　東京都の水産
魚種別単価〔円〕（タカベ）	⑤	1,270	最近3ヵ年H27～H29のタカベ単価の平均　東京都の水産
（イサキ）	⑥	801	最近3ヵ年H27～H29のイサキ単価の平均　東京都の水産
漁業経費率	⑦	0.25	東京都調査：一本釣漁業平均
年間便益額〔千円/年〕		2,730	((③/(③＋④)×①×②×⑤)＋(④/(③＋④)×①×②×⑥))×(1-⑦)/1000

(4) 漁港施設整備に伴う利便性労働環境改善効果

4-1　漁港整備に伴う労働環境改善（羽状漁港）

区分			備考
羽伏漁港利用日数〔日/年〕	①	20	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数〔人/隻〕	②	29	港勢調査（H29）登録漁船隻数
漁船1隻当たりの乗組人員〔人/隻〕	③	2.0	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
羽伏漁港利用者数〔人〕	④	58	②×③
漁港作業時間(時間/日)	⑤	2.25	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
作業の基準値（整備前）	⑥	1.149	Bランク；過重労働-H31.4ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ-
作業の基準値（整備後）	⑦	1.000	Cランク；通常労働-H31.4ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ-
漁業者労務単価(千円/時間)	⑧	1.877	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕	⑨	730	①×④×⑤×(⑥－⑦)×⑧
事業費按分比率	⑩	0.417	新規計画との按分
計上年間便益額〔千円/年〕		304	⑨×⑩

4-2　漁港施設整備に伴う労働環境改善（若郷漁港）

区分			備考
羽伏漁港利用日数〔日/年〕	①	135	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
漁船隻数〔人/隻〕	②	18	港勢調査（H29）登録漁船隻数
漁船1隻当たりの乗組人員〔人/隻〕	③	1.3	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
羽伏漁港利用者数〔人〕	④	23	②×③
漁港作業時間(時間/日)	⑤	2.25	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
作業の基準値（整備前）	⑥	1.149	Bランク；過重労働-H31.4ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ-
作業の基準値（整備後）	⑦	1.000	Cランク；通常労働-H31.4ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ-
漁業者労務単価(千円/時間)	⑧	1.877	漁業経営調査報告（H30）
年間便益額〔千円/年〕	⑨	1,954	①×④×⑤×(⑥－⑦)×⑧
事業費按分比率	⑩	0.692	新規計画との按分
計上年間便益額〔千円/年〕		1,352	⑨×⑩

(5) 生活環境の改善効果

5-1　防波堤等壁整備による航路欠航回数の減少（若郷漁港）

区分			備考
新島減少欠航回数〔回/年〕	①	112	整備前H14～H16欠航回数－整備後H28～H30欠航回数
JF1回当たり乗降客数〔人/回〕	②	54	H28～H30平均乗降客数/H28～H30平均JF就航便数
年間増加乗降客数〔人/年〕	③	6,048	①×②
欠航時の旅客待ち移動コスト〔千円/日・人〕	④	54.600	2.275千円(一般労務単価:毎月勤労統計（H30））×24時間
年間便益額〔千円/年〕		330,221	③×④

5-2　特目岸壁整備によるJF利用者の利便性向上（若郷漁港）

区分			備考
荒天時就航便数〔回/年〕	①	44	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査 484回(年間就航便数)×33日（荒天時日数:漁協ヒアリング）/365日 ≒44回
JF1回当たり乗降客数〔人/回〕	②	54	H28～H30平均乗降客数/H28～H30平均JF就航便数
年間対象乗降客数〔人/年〕	③	2,376	①×②
待機所までの平均移動時間〔時間/回〕（整備前）	④	0.18	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
待機所までの平均移動時間〔時間/回〕（整備後）	⑤	0.08	
一般労務単価〔千円/時間〕	⑥	2.275	毎月勤労統計（H30）
年間便益額〔千円/年〕		541	③×（④－⑤）×⑥

(6) 生命・財産保全・防御効果

6-1　係船岸整備等による漁網等破損経費の削減（羽状漁港）

区分			備考
イセエビ刺網経営体数〔経営体〕	①	25	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
荒天で網をあげられない頻度〔回/年〕	②	1.5	
網をあげられない延べ回数〔回/年〕	③	37.5	①×②
潜水夫賃金（日額）〔千円/回〕	④	40.5	公共工事設計労務単価（H31.3）
1回当たり投入網数〔網〕	⑤	21	調査日：令和元年11月21日 調査対象者：にいじま漁業協同組合 調査実施者：東京都職員 調査実施方法：ヒアリング調査
網代（作り直し網経費）〔千円/網〕	⑥	22.5	
網の破損比率	⑦	1.0	
年間便益額〔千円/年〕		19,238	③×④＋③×⑤×⑥×⑦

(7) 施設利用者の利便性向上効果

7-1　防波堤整備による観光客増加による効果（若郷漁港）

区分			備考
定期船による観光客増加数〔人〕	①	3,024	6-1　防波堤等壁整備による航路欠航回数の減少（若郷漁港）における増加乗降客数の1/2
新島までのアクセス時間〔時間〕	②	9.8	立川～浜松町～竹島客船ターミナル1.5時間 東京港～新島3.4時間 (1.5＋3.4)×2＝9.8時間
新島までのアクセス費用〔千円/人〕	③	23.140	JR立川駅～JR浜松町駅620円 東京港～新島7,680円2等料金 (620＋10,950)×2＝23,140時間
来島者の時間価値〔千円/時間〕	④	2.275	H30年度毎月勤労統計調査年報（厚生労働省）
年間便益額〔千円/年〕		137,395	①×（②×④＋③）

※端数処理のため各項目の和は必ずしも合計とはならない。

漁業就業者の労働環境改善効果における労働環境評価チェックシート

5-1 漁港整備に伴う利便性向上による労力の軽減（羽伏漁港）

評価指標			根拠（評価の目安）	評価ポイント	整備前 チェック	整備前 ポイント	整備後 チェック	整備後 ポイント	評価の根拠
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気が頻発している	ほぼ毎年のように事故や病気が発生	3					整備前：直近5年以内には事故の発生は無いが、事故発生の危険性があった。 整備後：港内静穏度が向上するなど、危険な作業は改善された。
		b. 過去に作業中の事故や病気が発生したことがある	直近5年程度での発生がある	2					
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される		1	○	1			
		d. 事故等が発生する危険性は低い		0			○	0	
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	海中への転落、漁港施設内での交通事故等	3	○	3			整備前：港内静穏度が悪い状況での陸揚・準備作業や漁船の上架作業は海中への転落の危険性が大きかった。 整備後：港内静穏度の向上や係船岸・船揚場整備により、危険な作業は改善された。
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	転倒、資材の下敷き、落下物の危険等	2					
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いケガ	軽い打撲等	1					
		d. 事故等が発生する危険性は低い		0			○	0	
	危険性 小計			0～6	－－	4	－－	0	
作業環境		a. 極めて過酷な作業環境である	酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	5					整備前：港内静穏度が十分でない現状では、泊地内や係船岸での作業は越波や岸壁への波の打ち上げ等の影響を受けていた。 整備後：港内静穏度の向上により越波や波の打ち上げの影響は改善された。
		b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	風雨、波浪の飛沫等	3	○	3			
		c. 風雨等の影響を受ける場合がある		1			○	1	
		d. 当該地域における標準的な作業環境である		0					
重労働性		a. 肉体的負担が極めて大きい作業	人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	5					整備前：港内静穏度の悪い状況での作業や人力での漁船上架作業など、負担のある作業が強いられていた。 整備後：静穏度の向上と係船岸・船揚場整備により、安全で通常作業程度の作業に改善された。
		b. 肉体的負担が比較的大きい作業	長時間の同じ姿勢での作業等	3					
		c. 肉体的負担がある作業		1	○	1			
		d. 通常の作業と同等程度の肉体的負担		0			○	0	
評価ポイント計				0～16	－－	8	－－	1	
作業状況ランク				A～C	B		C		

Aランクの条件 ： 評価ポイント計16～13ポイント　※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること。
Bランクの条件 ： 評価ポイント計12～6 ポイント
Cランクの条件 ： 評価ポイント計 5～0 ポイント

5-2 漁港整備に伴う利便性向上による労力の軽減(若郷漁港)

評価指標			根拠(評価の目安)	評価ポイント	整備前		整備後		評価の根拠
					チェック	ポイント	チェック	ポイント	
危険性	事故等の発生頻度	a. 作業中の事故や病気が頻発している	ほぼ毎年のように事故や病気が発生	3					整備前:直近5年以内には事故の発生は無いが、事故発生の危険性があった。 整備後:港内静穏度が向上するなど、危険な作業は改善された。
		b. 過去に作業中の事故や病気が発生したことがある	直近5年程度での発生がある	2					
		c. 過去に発生実績は無いが、発生が懸念される		1	○	1			
		d. 事故等が発生する危険性は低い		0			○	0	
	事故等の内容	a. 生命にかかわる、後遺症が残る等の重大な事故等	海中への転落、漁港施設内での交通事故等	3	○	3			整備前:港内静穏度が悪い状況での陸揚・準備作業や漁船の上架作業は海中への転落の危険性が大きかった。 整備後:港内静穏度の向上や係船岸・船揚場整備により、危険な作業は改善された。
		b. 一定期間の通院、入院加療等が必要な事故等	転倒、資材の下敷き、落下物の危険等	2					
		c. 通院不要で数日で完治するようなごく軽いケガ	軽い打撲等	1					
		d. 事故等が発生する危険性は低い		0			○	0	
	危険性 小計			0～6	－－	4	－－	0	
作業環境		a. 極めて過酷な作業環境である	酷寒、猛暑、風雪、潮位差が大きい等	5					整備前:港内静穏度が十分でない現状では、泊地内や係船岸での作業は越波や岸壁への波の打ち上げ等の影響を受けていた。 整備後:港内静穏度の向上により越波や波の打ち上げの影響は改善された。
		b. 風雨等の影響が比較的大きい作業環境である	風雨、波浪の飛沫等	3	○	3			
		c. 風雨等の影響を受ける場合がある		1			○	1	
		d. 当該地域における標準的な作業環境である		0					
重労働性		a. 肉体的負担が極めて大きい作業	人力での漁船上下架、潮位差の大きい陸揚等	5					整備前:港内静穏度の悪い状況での作業や人力での漁船上架作業など、負担のある作業が強いられていた。 整備後:静穏度の向上と係船岸・船揚場整備により、安全で通常作業程度の作業に改善された。
		b. 肉体的負担が比較的大きい作業	長時間の同じ姿勢での作業等	3					
		c. 肉体的負担がある作業		1	○	1			
		d. 通常の作業と同等程度の肉体的負担		0			○	0	
評価ポイント 計				0～16	－－	8	－－	1	
作業状況ランク				A～C	B		C		

Aランクの条件 : 評価ポイント計16～13ポイント ※必ず「事故の発生頻度」、「事故等の内容」の両方の指標でポイントが上げられていること。
Bランクの条件 : 評価ポイント計12～6 ポイント
Cランクの条件 : 評価ポイント計 5～0 ポイント